



げんげんどう

特集 腎臓の基礎知識

2023.4 No. 94

- ① 呼吸器内科部長 野口医師の油絵 -ルナリアの花-
- ② 入社式開催 新任医師紹介
- ③ 新型コロナウイルス感染症5類 学習会および学会参加
- ④ ⑤ 腎臓の基礎知識
- ⑥ 看護部の紹介
- ⑦ 安全対策委員会活動 緩和ケア委員会活動
- ⑧ 特定健診 後期高齢者健診のお知らせ
腎臓病地域連携パスについて
玄々堂木更津クリニック新築移転工事



表紙の絵：呼吸器内科部長 野口医師が描いた油絵です。アブラナ科のルナリアは海外では、その楕円形の種子がちょうどコインのようであることからドライフラワーとしても人気があり、米国では money plant とも呼ばれています。春の日差しの中で淡い藤紫色の花を咲かせ、長い冬の間、蛹のなかで春を待っていたモンシロチョウなどが好んでその蜜を追い求めて訪れる季節の花です。

2023年度 入社式開催

総務課主任 永沼 剛

新入職員の門出を祝うかの如く桜満開となった4月1日、新館大会議室に於いて2023年度入社式が執り行われました。期待と不安が入り混じる中、新入職員29名は池田院長から辞令を受け、温かい激励の言葉をいただきました。新入職員代表の看護師鹿野真由さんからは「これから求められる医療に適応できるよう、一人一人が自覚を持ち、チームとして同じ目標に向かい頑張りたい」と力強い意気込みの籠った決意表明があり、素晴らしい式典となりました。

当院の理念、方針である「患者さんを大切に、良質で安心なぬくもりのある医療」の実践者、医療人としての活躍を期待しています。



29名の新入職員



新入職員代表挨拶



オリエンテーションの様子

2023年度 新入職員名簿

看護師		
鹿野 真由	前村 佳穂	江波戸 怜花
松井 香菜子	山田 菜々子	星野 敦美
山田 芽依	座間 流星	竹本 亜希子
上村 凜	前田 夏美	
准看護師		
桐ヶ谷 舞	本多 勇翔	山口 良太郎
作業療法士		
尾崎 咲耶	重田 多恵	
診療放射線技師		
佐久間 悠貴	藤原 麗	
臨床工学士		
田中 郁行	溝口 楓真	辻川 大輝
矢野 真奈		
クラーク		
藤原 茜	蛭田 桃華	古賀 麻菜香
事務員		
高橋 愛佳	北原 綾乃	
運転士		
美藤 明	阿部 公美	

第3回 病院教育委員会学習会開催

臨床検査科 臨床検査技師 菅 聖

12月22日に病院教育委員会学習会が、オンラインで開催されました。今回は臨床検査科の平野繁治科長から、臨床検査の注意点や新型コロナウイルスPCR検査の仕組みと結果の見方などについて講演いただきました。



平野繁治科長の講演

新型コロナウイルス感染症5類になるとどうなるの？

感染管理認定看護師・感染管理室看護師長 永塚 藍

政府は5月8日から、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけを『新型コロナウイルス感染症(2類相当)』から『5類』に移行する方針を発表しました。感染症法では、感染の広がりやすさや重症度などに応じて実施する対策を決めています。新型コロナウイルス感染症に対しては、入院勧告や就業制限、外出自粛などの措置が実施され、医療費の公費負担やワクチン接種の無料化が行われてきました。また、政府がマスクの着用や換気についてのルールも定めています。

5類へ引き下げられた場合、これらの対応は撤廃されることが想定されます。しかし、医療機関や高齢者施設ではクラスター防止策の継続が求められるため、病院内でのマスクの着用や手指消毒の実施、発熱患者さんへの対応などは引き続き取り組む必要があります。安全・安心に診療を受けていただくために今後とも皆様のご理解ご協力をお願いいたします。



臨床検査は、患者さんから採取した血液や尿、便などの検体の成分を分析し、疾病の早期発見・診断に役立てるために行います。検体の取り扱いには細心の注意が必要です。特に血液型・輸血の検査では、検体や製剤の取り違えが起きると生命に関わる

学会では歩行を守り・下肢切断を無くすことを目標にしております。私も毎年足病変に関して発表を行っています。そもそもなぜ学会への参加・発表を行っているかと言うと、透析室で「足が痛くて歩けない」「どうする?」「足を触っても何も感じない」...

重大な事故となってしまうため、検査者にとっても気の引き締まる検査となります。

第3回日本フットケア・足病医学会に参加して

臨床工学科 副技士長 川上 崇

「どうする足病変?そんな思いを10年前から抱いて今年も、2月11日・12日に開催された第3回日本フットケア・足病医学会に参加・発表しました。本学会は日本フットケア学会と日本下肢救済学会が合併した学会で、例年1500人を超える参加者が現地会場に参集しています。

3月18日から3月19日の2日間、埼玉県の大宮ソニックシティで第13回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会が開催されました。本学会は連携で生きる腎臓リハビリテーションがテーマとなり、リハビリ職のみならずチーム連携に関わる多職種から様々な話題が議論されました。

当院からは、リハビリテーション科から長谷川右京理学療法士の「当院透析患者における身体機能及び栄養状態、心胸郭比の関係性について」と福原昌子の「外来透析患者の転倒危険因子の検討」の2演題を発表しました。



新任

医師紹介

4月1日に入職した二人の常勤医師を紹介いたします



西尾 恵
【出身地】神奈川県
【趣味】お城巡り

専門 消化器内科



根本 佳和
【出身地】千葉県香取市
【趣味】音楽・バンド、ゲーム

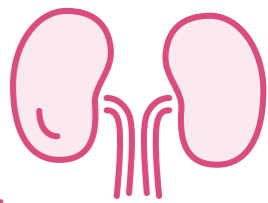
専門 腎臓内科

【ひと言】未熟者ですが、少しでも貢献できるよう精進します。ご指導よろしくお願ひします。

【ひと言】帝京大学ちば総合医療センターで腎臓内科医として働いてきました。内科医ではありませんが、透析関連のアクセスに興味があり、これらの手技を学びたく考えておりました。そういった中、縁あって玄々堂君津病院で勤務させていただくことになりました。不慣れな点も多いと思いますが何卒よろしくお願ひいたします。



なら100年会館およびホテル日航奈良にて現地開催



特集

腎臓の基礎知識

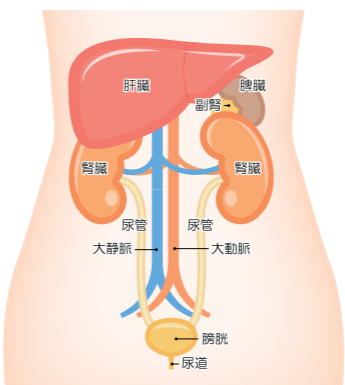
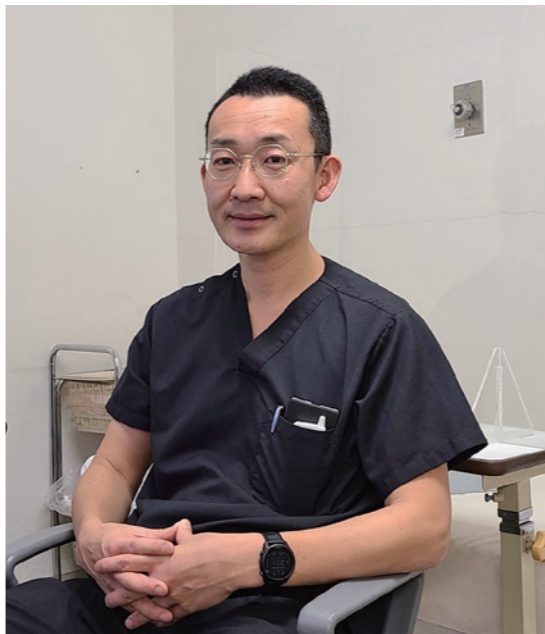
腎臓内科部長 西山 成一

最近、慢性腎臓病、GFR値について種々いさんがテレビCMをやっています。これで腎臓について関心を持たれた方もいるかもしれませんが。今回は少し腎臓の基礎知識についてお話ししたいと思います。

腎臓は背中側、腰の高さに左右一つずつあり、握りこぶし大の臓器です。小さな臓器の割に心臓が送り出す血液の1/5〜1/4程度(かなり多い!)が流れ込み、その血液をろ過することで尿を作っています。血液が糸球体と呼ばれる細い血管(顕微鏡じゃないと見えないサイズ)を通る時にろ過が行われるため、あまり勢いが強いと血管が傷

みます。つまり血圧が高いと腎臓はダメージを受けます。

腎臓の動きは「糸球体が血液をろ過している量」で示され、一番良い状態で1分間に100〜120mlくらいろ過されます。この数値を糸球体ろ過量(GFR)と呼び腎臓の状態の目安になります。実際にGFRを測定するのは手間がかかるため、血液検査のクレアチニ

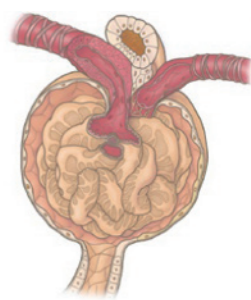


もう一つ腎臓の状態を知るための検査が尿検査です。尿に本来出ないはずの赤血球が出ると潜血や血尿、タンパク質が出ていると尿タンパクと呼び、腎臓や尿の通り道に炎症が起きている、結石がある、腫瘍ができているなどの病気の予兆を疑います。特に尿タンパクが出ていると腎臓病を疑い、尿タンパクの量が多いほど腎臓のダメージは大きい、速いスピードで腎臓が傷むと推測します。

GFRが60以下の状態、もしくは尿タンパクが1日0.15g以上出ている状態が3か月以上続くと「慢性腎臓病」と診断されます。

CKDステージ(病期)	G1	G2	G3a	G3b	G4	G5
腎臓の機能状態	90%以上	60~89%	45~59%	30~44%	15~29%	15%未満
eGFR	≥90	60~89	45~59	30~44	15~29	<15
症状	ほぼ正常	腎機能低下	中等度低下	高度低下	末期腎不全	透析
	自覚症状がほとんどない		むくみ、息切れ、疲れなど			

(CKD診断ガイド2012から一部抜粋)



診断は血液検査と尿検査でできて

てもシンプルですが、原因は多岐にわたります。その中でも特に多いのは糖尿病の合併症で腎臓が傷んでしまう糖尿病性腎症、糖尿病性腎臓病、高血圧が原因で腎臓が傷んでしまう腎硬化症です。数はそれほど多くないかもしれませんが肥満が原因の肥満関連腎症もあります。つまり、生活習慣病の合併症として腎臓が傷んでしまうことが多く、腎臓特有の病気で腎臓が悪くなる方はむしろ少数派です。

慢性腎臓病には

2つの問題があり、

腎臓以外にも影響します



まず腎臓が悪くなることそのものの問題で、GFR値は一番良い状態で100くらい、10くらいまで低下してくるとそろそろ透析治療なども考えなければいけない段階です。GFR値の下がる速度が早ければ腎臓がダメになるのも早いですが、同じGFR値でも年齢が違えばつきあい方も異なります。仮に85歳が寿命だとして、6歳の方ならば残り25年、80歳の方であれば残り5年、腎臓には頑張ってもらわ

要があります。

次に、腎臓そのものは大丈夫だったとしても、GFR値が悪いほど心臓や脳の合併症の危険が高くなることです。

慢性腎臓病は残念ながら改善することはめったにありません。今残されている腎臓の動きを大事に守って、できるだけ進行を遅くすることが治療の目標です。血圧が高いこと、塩分摂取が多いことは特に腎臓を傷つけます。進行を遅くするための内服治療も、血圧、塩分摂取が良い状態にないと十分な効果が出ません。苦勞の割には「良くなっている」という実感が持てないのが慢性腎臓病治療のつらいところですが、悪くなっていない、悪くなるのがとてもゆっくりというのは立派な治療の成果です。

慢性腎臓病で症状が出るのはGFR値が20程度になってからですが、症状がなくても着々と進行し、心臓、脳の合併症も含めて体をむしばんでいます。もし健診や病院の検査で腎臓の異常を指摘されることがあれば一度は医師にご相談されることをお勧めします。

患者さんとの関わりで大切にしていること

私が慢性腎臓病の患者さんとの関わりの中で大切にしていることは二つあります。

一つ目は、患者さん一人一人の病状に合わせた看護を提供することです。外来という限られた時間の中で、患者さんの話や検査結果をふまえ、情報を把握し、医師と連携し、その人にとって今最善の治療やアドバイスが出来るように対応しています。また、今ある腎機能を維持するために、患者さんとコミュニケーションをとり、定期通院を継続できるような声かけも大切にしています。

二つ目は、腎代替療法についての関わりです。腎代替療法は血液透析・腹膜透析・腎移植があります。患者さんにとって腎代替療法を受け入れることは、迷いや不安が多いと思います。その時、患者さんの気持ちに傾

外来看護師 鳥海 明子

聴し、その人にとってどの治療が生活の一部に取り込みやすいかを患者さんやご家族と一緒に考え、選んだ療法に対し、前向きに治療することが出来るようにサポートすることを大切にしています。

今後、患者さん一人一人と向き合い、医師や他部署とも連携し、患者さんがより良い治療を受けられるように、日々関わっていききたいと思います。「もしも腎臓が…」ということがありましたら、遠慮せずご相談ください。外来でお待ちしております。



腎代替療法説明時にお渡しするパンフレット

最近、認定看護師という言葉が聞かれるようになりました。どのような仕事をしているのか当院にいる認定看護師に伺いました。

認定看護管理者とは、看護師として5年以上の実践経験を持ち、日本看護協会が定める510時間以上の認定看護管理者教育を修めるか、大学院で看護管理に関する単位を取得して修士課程を修了した後に、認定看護管理者認定審査に合格することで取得できる資格です。

私がこの資格に挑戦した理由は、患者さんやご家族はじめ地域の皆様に対しより質の高い看護サービスを提供できるように、看護部組織の課題を明らかにし、看護サービス提供体制の向上に取り組みたいと思ったからです。

資格取得して3年経過する中で、台風災害対策やコロナウイルス感染症対策に取り組んできました。今年度は近隣の医療機関や千葉県看護協会との連携強化を図り、地域全体の医療・看護の質の向上に努めていきたいと思っています。



認定看護管理者・看護部長
木村 純子

私は、看護部の理念である「安全で安心と納得のできる看護」を提供できるよう、教育体制の構築や、働きやすい環境の整備、入退院の支援などに取り組んでいます。

近年、社会状況は刻々と変化し、看護職に求められる能力は多様化しています。そのような中でも柔軟に生き生きと活動できる場を整備する事も認定看護管理者の役割です。現在、君津地区部会の役員として地域施設と連携を取り、教育の場を設けたり、千葉県看護協会の認定看護管理者研修では、受講生が問題解決能力を習得できるようにアドバイザーを務めています。これからも院内外を問わず、次世代の育成に取り組んでいきたいと思っています。



認定看護管理者・副看護部長
鳥飼 紀子

看護部の紹介

病院は、ご高齢の方、免疫力の弱い方などが治療やリハビリを受けるために集まる感染リスクの高い場所です。感染管理認定看護師の役割は、専門的知識に基づいて病院にかかわるすべての人を感染から守ることにあります。コロナ禍においては病院で働く多くの職種と協力しながら、防護具の着脱訓練や手指消毒剤の使用推進活動、診察室や病室の環境管理などに携わってきました。今後も、当院を利用される皆様方へ安全で安心な医療を提供できるよう、ケアの質向上に努めていきたいと思っています。

感染拡大防止へのご協力をお願いいたします！



感染管理認定看護師・感染管理室看護部長
永塚 藍

みなさんこんにちは。認知症は脳の病気や障害など様々な原因により、認知機能が低下し日常生活に支障が出てくる状態をいいます。認知症看護は、さまざまな症状・進行など状態を詳しく把握し、その状態に応じた対応や支援を行います。からだの様子だけでなく、認知症のその方が何を大切にしているのか、どんな生活を送られているのか、全ての情報をキャッチしながら最善のケアを考え実践することが求められます。認知症になっても、その人らしく生活できるようにサポート体制を構築していき、相談対応にも随時のっていきたくと考えます。家族相談にも耳を傾け一緒に考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。



認知症看護認定看護師・療養病棟看護部長
谷 美行

創傷(Wound)・オストミー(Ostomy)・失禁(Continence)領域において、問題を抱えている患者さんへ専門的な知識を用いてケアを提供しています。

皮膚・排泄ケア領域は人に見られたくない、知られたくない部分のケアとなるため、背景や想いを汲み取って個人に適した、継続できる看護を心がけています。スキンケア・排泄ケア領域は看護の基盤ともなります。今年度は勉強会・実技指導を例年よりも多く予定し、看護の質の向上につなげていきたいと考えています。

なかなか治癒しない創傷・褥瘡やストーマの周囲皮膚トラブル、失禁領域でお困りのことがありましたら、ぜひご相談ください。



皮膚・排泄ケア認定看護師・外来看護師主任
佐藤 茜

糖尿病認定看護師の活動として、外来受診時には、患者さんが自宅で行ってきた血糖改善のケアがどのようにデータにつながっているのか一緒に考え、自宅で行ってきた患者さんの努力を称賛し、継続に向けた支援を行っています。

また、医師の治療方針と患者さんの糖尿病治療への思い・取り組みが一緒に進んで行くようにサポートしています。病棟看護師とともに入院患者さんのカンファレンスに参加したり、透析患者さんの血糖相談を受けて、医師につなぐことも行っています。

今年度は、糖尿病治療の今を皆さんに伝えられるよう、効果的な情報提供の場をスタッフとともに作っていきたくと考えています。

糖尿病について知りたい時、気になっている時、いつでも気軽に声をかけてください。



糖尿病認定看護師・外来看護師主任
町田 洋子

安全対策委員会活動

安全対策委員会委員長 平野 繁治

医療の高度化・複雑化にともない、医療安全の確保は非常に重要な課題の一つです。

当院では安全・安心な医療を提供するため、毎月安全対策委員会を開催し、インシデント・アクシデントレポートの分析および安全対策に資する検討を、多職種で行っています。結果は現場にフィードバックし、再発防止に努めています。さらに、医療安全管理者による各部署への安全確認ラウンドを定期的に行い、患者確認ルールに沿って安全確認が実施されているか等、チェック表を基に指導をしています。

また、全職員を対象にした医療安全にかかわる研修を年2回以上開催し、職員一人一人が医療安全に対する知識や理解が深まるよう継続的に取り組んでいます。

医療業界では過去に患者間違いによる重大な事故が起きています。当院では、相互確認のため様々な場面で、患者さんにはフルネーム(生年月日)を名乗っていただいております。医療安全を推進していけるよう皆様のご理解とご協力をお願い致します。



安全対策委員会の様子

緩和ケア委員会活動

緩和ケア委員会 久保田 将

緩和ケアとは、生命を脅かす病を抱えている患者さんとその家族が直面するつらさや、今後起こりうる苦痛を予測し対応することで、日々の生活がよりよくなることを支える医療です。

当院の緩和ケア委員会では医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、医療ソーシャルワーカーなどの多職種からなるチームで患者さんと家族をサポートできる体制を整えております。

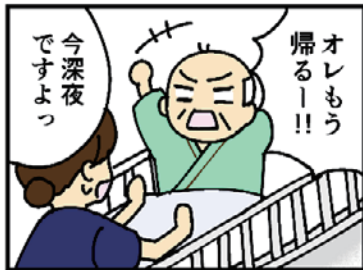
苦痛には、身体的な痛みだけではなく、精神的、社会的な問題からくる痛みなど、様々なものがあります。吐き気、息苦しさなどの体の症状、また、眠れない、気持ちが悪むなどの心の症状に対して、内服治療やメンタルケアで痛みの緩和をはかり、さらに、退院に際し必要なサポートを患者さんの希望にそって調整させていただきます。

我々緩和ケアチームは、患者さんと家族のつらさが少しでも和らぎ、その人らしく日々の営みを続けられるようお手伝いさせていただきます。



緩和ケアチーム

げんげん 日和



作：まつ



X線透視装置の更新

消化管検査や血管造影検査などで使用するX線透視装置を1月に更新しました！
被ばく低減とさらに高画質な画像を提供しています。

特定健診・後期高齢者健診のお知らせ

玄々堂君津病院 医事課長 山口 伸行

特定健診・後期高齢者健診について

例年6月から9月にかけて国民健康保険特定健康診査と後期高齢者健康診査が実施されます。
この健康診査は生活習慣病予防を目的としています。

お手元に受診券が届いたら積極的に受診しましょう。

当院での受診は予約制となります。詳細は行政の実施スケジュールが発表され次第、院内掲示・ホームページ等でお知らせいたします。

腎臓病地域連携パスについて

特定健康診査を受診した方のうち、腎機能検査及び糖代謝検査において一定の基準に該当した方には、市から「腎臓病地域連携パス」という用紙が郵送されます。

「腎臓病地域連携パス」は、生活習慣病を原因とした慢性腎臓病による人工透析導入者の減少を目的とした君津地域4市の健康推進事業です。この「腎臓病地域連携パス」に沿って医療機関を受診していただくと、かかりつけ医から専門性の高い二次医療機関へスムーズに受診できるようになっていきます。「腎臓病地域連携パス」の封筒がお手元に届いた方はまず、かかりつけ医にご相談下さい。



腎臓病地域連携パス

秋の開院に向けて順調！

玄々堂木更津クリニック新築移転工事

2023年2月16日 上棟式の様子



玄々堂君津病院 各お問い合わせ番号 月曜日～土曜日(日曜・祝日は除く)

玄々堂君津病院
0439-52-2366
代表

外来診療予約
0439-52-7068
診療予約・予約変更

地域連携室
0439-52-2457
医療機関からの患者さんのご紹介

総合腎臓病センター
0439-52-2750
腎臓病コーディネーター

玄々堂グループ広報誌

げんげんどう

第94号 2023年4月27日発行

発行者：玄々堂君津病院
発行責任者：副院長 大崎慎一
企画・編集：新聞委員会

医療法人 新都市医療研究会「君津」会

玄々堂君津病院

〒299-1144 千葉県君津市東坂田4-7-20

電話 0439-52-2366(代表)

URL <http://www.gengendo.jp>

